SOE NEWS
No.160
2020年
1月

2020年あけまして おめでとうございます。

今年もご一緒に、温暖化防止に向け、足元から小川の流れをつくりませんか

☀

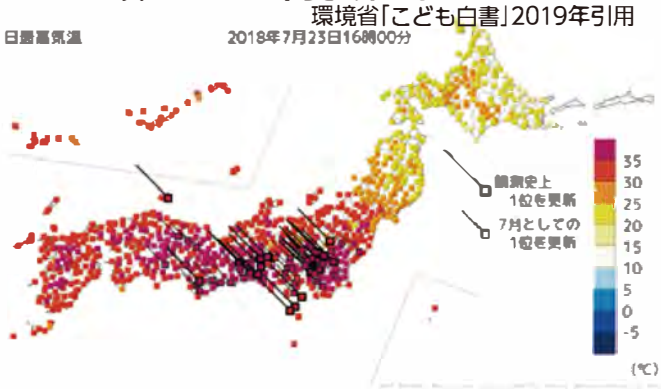
センスオブアース
市民による自然共生パンゲア
平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体

1992年、ブラジルのリオデジャネイロで「環境と開発に関する国連会議（地球サミット）」が開催されました。この時、12歳のカナダのセヴァン・カリス＝スズキさんが壇上に上がり、怒りに心を震わせて大人たちに訴えかけました。「直す方法を知らないのなら、地球をこわし続けるのはやめてほしい。犠牲になるのは、わたしたち子どもの未来です」と語った。そのまっすぐな姿は、集まった人たちだけでなく世界中の人々の心を大きく動かしました。（環境省「こども白書2019」より引用）

SOEが実施している環境教育プログラム
上・自然体験　下・学校産のとうふをつくろう

2019年9月23日、国連「気候行動サミット」で、16歳のスエーデンのグレタ・トゥンベリさんが演説した。「こんなことは完全に間違いだ。私はここに立っているべきではない。私は海の反対側で学校に戻っているべきだ。それなのにあなたたちは、私たち若者の所に希望を求めてやってくる。（そんなことが）よくもできるものだ。あなたたちは空っぽの言葉で、私の夢と子ども時代を奪い去った。でも私は運のよい方だ。人々は苦しみ、死にかけ、生態系全体が崩壊しかけている。私たちは絶滅に差し掛かっているのに、あなたたちが話すのは金の事、永遠の経済成長というおとぎ話だけ。なんということだ。（中略）気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の最善の見立てでは、世界に残されたCO_2排出許容量は4,200億トンだが、現在では、（排出許容量は）3,500億トンを下回った。（中略）現状の排出レベルでは、残されたCO_2排出許容量に8年半もたたずに達してしまう。～あなたたちには失望した。しかし若者たちはあなたたちの裏切り行為に気づき始めている。すべての未来世代の目はあなたたちに注がれている。私たちを失望させる選択をすれば、けして許さない。あなたたちを逃がさない。～世界は目を覚ましつつある。変化が訪れようとしている。あなたた

気温上昇　2018年夏の記録的な気温（例）
環境省「こども白書」2019年引用



☀

SOEは、新たな年にあたり、気候変動への世界と日本の取り組みに連帯して、プログラム開発と、その普及のために、微力を尽くして参ります。

NPO法人センスオブアース　一同

第10回 SOE 講演とみそ作り講座
お話「発酵の力と健康」
参加者 40人◎2019年12月1日

この講座は、2010 年から始まり、10 年目となりました。ここ数年、SOE・エコポリスセンターの支援（エコポリゼミナール）の下、東京家政大学の宮地孝宣ゼミ生がしっかりと企画運営してきました。

今年度は、講演のテーマが「発酵」。講師は東京家政大学・宮尾茂雄先生。今、健康食品として、注目されている、納豆や塩こうじ･漬物･ヨーグルト・チーズ・鰹節・酒・みりん、そして、しょう油・みそ。参加者に発酵微生物の働きを易しく説明～発酵するのは麹菌や乳酸菌・酵母があり、物を腐敗させる酵素もある。今、人気のナタデココもフィリピンの発酵食品。和食がユネスコ無形文化遺産になったが、日本は水が軟水で汁ものにぴったり。料理法が多彩、発酵食品を作り易いそうです。酵素のサポニンは活性酸素を消去する作用、インフラボンは抗酸化作用、乳がんの予防効果などがあるそうです。

健康に良いその一つ、みそ作りを次に体験。多様な年代の参加者に向けて、今年度の学生は、例年以上に、積極的で、明るくハキハキと、わかりやすいプレゼンを行い、参加者も楽しそうに聞いて、みそを仕上げました。

風となかよし～３学年版　1時限扱い　学校公開

「風力発電器を作って発電させよう」

板橋区立北前野小学校３年生
２クラス50人◎12月２１日

「折り紙で風力発電を作れるなんて、びっくり」「太陽も雨も人間の生活に役立っているけど、風も役立っているんだな」「あれくらいの風で電気が作れるのか」「電力と風力で、自然環境に対応できる」

風のお話と、紙芝居「風の子フーのなみだ」を読んだ後、早速、折り紙で風車を作りました。それを各自にモーターに取り付け、走って回したら？！？！？！？！

～驚いたこと～

☺～風で電気ができる事～多数　☺風は人にとって大事なんだなと初めて知った。☺風をたいせつにしたい。☺風はいろいろなことに役に立つ。☺風力発電は大きなきかいしかできないと思っていたけど、小さいものでもできることがわかった。☺普通の風車でも、発電器を付ければ、風力発電器になることがわかった。☺風車一つで、いろいろなアイデアが思いつくと感じた。☺あのくらいの風で、電気ができるのかと驚いた。☺風力発電器を作ってみて、いいなと思った。☺風は電気まで作れるとは、思っていなかった。☺風で電気が作れるのなら、街灯と風力発電器をつなげてエコになるんじゃないか。☺風だけで電気を起こせることがすごいと思った。☺作るのは難しかったけど、体育館をぐるぐる回って、風車を回すのが楽しかった。

～これから、地球温暖化防止のために、どんなことをやっ　ていきたいか。～

☺電気はどうやって電気が起こるのかをやっていきたい。☺電気を使って風を調べる事。☺できるだけ電気を使わない。☺電気の無駄遣いをしない。節電。☺電気を作ってみたい。☺電気の使い方を大切にしてほしい。☺他にも風の力で電気ができるきかいの作り方が知りたい。

《鎌田・加藤各先生より》風とのかかわりの紙芝居や体験活動が特に意欲的だった。遊びを通して自然にあるもので電気を起こせて大変、学びの深い、すばらしい学習になった。

～高五小で栽培収穫した大豆で、高五小産とうふを作ろう～

板橋区立高島第五小学校
３年１組16人◎12月10日

「甘くて白いプリンみたいなプルンプルンでやわらかくておかしみたいな味がした。」

春から、大豆栽培に本格的に取り組んできた高五小3の1の子どもたち。収穫した大豆を入れ、みそ作りに続き、とうふ作りまで取組みました。「大豆はすごいぞ」の学習を、栽培から収穫、みそ・とうふ作り両方までやり遂げた3年生は初めてです！！

◎トロトロでスーパーに、売ってもいいくらい甘かった。◎お店で売っているとうふより甘くておいしかった。(多数) ◎おいしかったみそと合わせると、もっとおいしかった。◎とうふがとても美味で売ったら、大はんじょうなくらいおいしくできたこと。◎タイマーで 20秒ピッタリ計るのがおもしろかった。(ミキサーのモーターのため) ◎家の人に、料理の楽しさを話したい。◎とうふがおいしかったことを話したい。◎絞るのが楽しかった。◎絞るのがむずかしかった。◎温度を測るのが大変だった。◎なかなか固まらなかった。◎ミキサーでやるのが楽しかった。◎もう一度やりたい。

《三浦美樹先生より》前回、大豆から何ができるかを教えてもらい、今回はとうふの歴史を教えてもらった。自分でも作れたという体験ができてよかった。

発行　特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所　東京都板橋区前野町４－８－６（〒174-0063）phone: 03-3960-6052　fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp　url: npo-soe.jp